

審判上の確認事項

大会審判委員長

1. テクニカルタイムアウトについて

- (1) 「テクニカルタイムアウト（以下TTO）」は、選手及びスタッフ（小学生）の健康管理のためのタイムアウトである。
- (2) TTOが開始されたら、選手はベンチの外側の端に位置する。
- (3) ベンチスタッフ（大人）は、選手の健康観察を行い、不調が疑われる選手には直ちに対応する。
- (4) ベンチスタッフ（大人）は、選手およびスタッフ（小学生）全員が給水できるように準備をする。
- (5) ベンチスタッフ（大人）が選手に話しかけるときは、ベンチスタッフ自身が既定の位置に移動する。
- (6) TTO中は、ベンチスタッフ（大人）がフロアモッピングを行うことができる。

2. 靴紐を結ぶ場合は、試合進行の妨げとならぬよう、ボールデット間に速やかに結ぶ。また、レフェリーに申し出る必要はない。

3. 試合中、ボールを使用しての練習が認められるのは、セット間においてエンドライン後方のフリーザーンのみとする。ボールカゴは、ウォームアップエリア横（ベンチと反対側）に置く。

4. 監督は、試合を妨害しない限り、フリーザーン内ならばアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの範囲内において、一時的にベンチを離れてコート上の選手に指示を与えて良い。ただし、ラリー中はベンチに座らなければならない。

5. ワイピングについて

- (1) 試合中は、コート内の選手が自分で用意したタオルで速やかに拭く。
- (2) 公式練習終了後、タイムアウト及び、セット間には、選手またはチームスタッフがモップを使用してコート内とサービス・ゾーンのワイピングを行う。

6. 「軽度の不法な行為」「罰則につながる不法な行為」について

- (1) ベンチスタッフがファーストレフェリー（以下FR）の判定の後、ラインジャッジ、レフェリーに対して威圧的な態度を示したり不満を口にしたりした場合（無作法な行為、侮辱的な行為、攻撃的な行為）は、ルールに従いFRが、「軽度の不法な行為」「罰則につながる不法な行為」として適切に対応する。試合終了後、大会審判委員長にその内容を報告する。
- (2) 観戦者が上記（1）と同様の行為を行った場合、観戦者の行為に対するルールブック上の規程はないが、度を越した選手への指示（選手が指示に耳を傾ける態度を示した場合）やレフェリーへの不満の声は、試合にも大きく影響するため見過ごすことができない。直接、行為者に罰則を与えることができないため、行為者に代えて監督に対して上記（1）と同様の対応をとるようにする。その際、試合を中断し、監督にその旨を伝えるとともに、対象となる観戦者の方向を示すなどして、行為者及び他の観戦者にも状況が伝わるようにして自制を促す。

7. チーム審判（ファーストレフェリー・セカンドレフェリー、ラインジャッジ・点示・スコアラー（公式IF））について

- (1) 準々決勝までは、役員のサポートのもと、該当チームがFR・SRを行う。
※ チーム審判員としてC級以上のライセンスを持つ者を帯同させる。
- (2) レフェリーウェアを着用する。
ただし、レフェリーウェアがない者は、白のポロシャツ（トレーナー）に、紺か黒のスラックス（ジャージ）を着用する。そして、レフェリーワッペンを胸（中央）に付ける。またチーム名が分かる名札も付ける。
- (3) 審判に必要な用具を準備する。（長短ホイッスル、トス用コイン、筆記具（青のボールペン、定規）、腕時計、チーム名の入った名札）

(4) ラインジャッジ（4名）と点示（1～2名）とスコアラー（1～2名）は、各チームで行う。

※スコアラーは、チーム内の大人で行ってもよい。